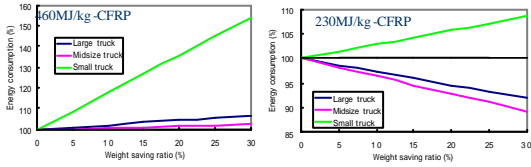


## トラックのLCA結果（一台あたり）



現在の原単位では環境負荷を小さくすることはできない  
将来的にも小型トラックは環境負荷が小さくならない

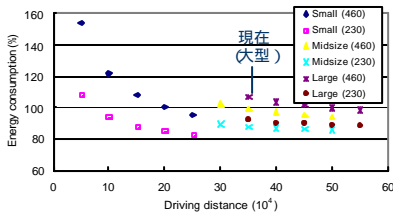
一台あたりで見るとトラックのCFRPによる軽量化は有効ではない

## 総走行距離のみを変化

年間走行距離を変えずに使用年数を変化させた場合を考える。

なお、現行のトラックが同距離走行したときの環境負荷を基準値100として比較する。

## 総走行距離のみを変化



## 総走行距離のみを変化

- 総走行距離をのばすだけで軽量化の効果をあげるのは難しい。
- CFRPは生産技術が確立されてないので原単位を大幅に下げることが可能。  
現在の総走行距離でも環境負荷を小さくできるようなる原単位

大型 350MJ/kg-CFRP  
中型 400MJ/kg-CFRP  
小型 150MJ/kg-CFRP

—— 大型トラック、中型トラックに関しては  
近々、目標となる原単位達成可能！！

## 積載量を変化

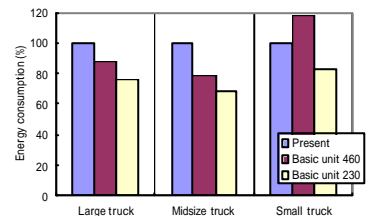
トラックは荷物を運ぶことが目的

一台あたりの積載量が増えれば  
トラックの台数は少なくて済む

国内総輸送トンキロは一定と考える。

各種トラック全体での環境負荷を考える

## 積載量を変化



現在

大型・中型  
環境負荷低減

将来

すべてで  
環境負荷低減